

虚子忌まで花の十日や愛はしきやし

藤田湘子

桜や紅葉や蛍など、そのいちばんいい時に出会うことのむつかしいものは、愛おしさがひとしおである。

虚子忌は四月八日、それまでの十日間が桜の見ごろ。毎年のことながら桜の咲く頃になると、今年はどここの桜に会いに行こうかと心がそわそわする。全国の名だたる桜を追って時刻表を練ったり、宿の手配をしたり、実際は、あと何回桜を見られるだろう、と思うような心境になり、そわそわというよりは心がざわざわする感じになっている。それでもやっぱり「花の十日」は充分に心優しい。それはまさに、古語「愛はしきやし」の意味の通りに、いとおしく、なつかしい日々である。

2001年（H13作）第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京